

ホセア書 11：1～11

マタイによる福音書 5：7

「憐れみ深い人々は幸い」

【招詞】詩編 51：12～14

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】詩編 130 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 8 「心の底より」

【祈祷】

【聖書】ホセア書 11：1～11、マタイによる福音書 5：7

【説教】「憐れみ深い人々は幸い」

<憐れみ深いと、憐れみを受ける？>

イエスさまの「山上の説教」の御言葉を、一節ずつ聞いています。今日は、「憐れみ深い人々は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける」という御言葉です。

「憐れみ深い人々は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける」。

これは、何となく聖書ではなくても、世の中で、道徳的に言われていることのようにも思われます。

人に親切なことをしたら、自分も親切にされる。人に良いことをしたら、いつか自分にも良いことが返ってくる。このような、因果応報的な考えは、わたしたちの心に、自然と沁みついているようです。

ですから、実際わたしたちも、良いことをしたら、好意的な反応が返ってくることや、感謝されることを、無意識に期待しているところが、あると思います。

確かに、誰かを憐れむこと、親切にすること、助けの手を伸ばすこと。それは、こちら側の勇気もいりますし、時間も、労力も、気力も使います。

それでも、相手のことを思って、困っているところを助ける。悩みや苦しみに寄り添う。それは、人として当たり前の、大切なこととされていますから、わたしたちも、そうすべきと思って、やろうとするわけです。

そしてやっぱり、せっかく何かしてあげたことに対しては、感謝されたいし、喜ばれたい。報われたい。

それは、わたしたちの当然の心持ちだと思われたい。

でも、実際には、そうはいかないことが、多いかも知れません。人に親切にしたのに、良く思われなかった。誤解されてしまった。良いことが返ってくるどころか、損をしたり、面倒に巻き込まれてしまった。

そうすると、わたしたちは何だかもう、心が挫けてしまって、がっかりしてしまう。せっかくしてあげたのに、と腹を立てたりする。あるいは、もう人間関係に疲れてしまって、今後は人と深く関わるのはよそう、余計なお世話はやめよう。そう思って、人との積極的な交わりを避けるようになってしまう。

そんなことも、あるのではないのでしょうか。

そうです、わたしたちはどこか、自分が喜びに満たされる範囲で。あるいは、自分が傷つかない範囲で。人を憐れむこと、親切をすること、愛することを、しようとしているのかも知れません。

<まことの「憐れみ」とは>

でも、イエスさまが言われる「憐れみ」は、わたしたちが考えている「憐れみ」を、もっと大きく、深く、超えています。

わたしたちはまず、本当の「憐れみ」がどのようなものなのかを、知らなければなりません。そして、本当の「憐れみ」を、わたしたちは、神さまによってしか、知ることができないのです。

旧約聖書で使われている「憐れみ」という言葉は、神さまにおいて使われる言葉です。他に、「愛」とか「慈しみ」と訳されることもあります。

そして、この神さまの「憐れみ」は、神さまと、神さまが契約を結んだ、イスラエルの民との関係において、特に現わされたのです。

聖書が語る、神さまの「憐れみ」は、民との「契約」、「約束」と、深く結びついているのです。

旧約聖書において、神さまはイスラエルの民を選び、エジプトの奴隷の家から救い出し、彼らと契約を結ばれました。

その契約とは、神さまが、彼らの神となったださり、彼らは、神さまの民となる、という契約です。神さまと民とが、関係を結ぶための契約です。

そして、この契約が結ばれた目的は、選ばれた民を通して、神さまが救いの御業を実現するため。お造りになった、愛するすべての人々を罪から救い出し、地の果てまで祝福するためでした。

一方、契約を結んでいただいた民が求められたのは、この救い、導き、祝福してくださる神さまを、ただ唯一の、まことの神とすること。そして、その御心に従って、神さまを愛し、隣人を愛する、ということでした。

この恵みの契約の中で、選ばれた神の民は、神さまに愛され、生かされ、導かれ、守られて、歩いていきました。

しかし、罪深い民は、一方的に、神さまとの契約を破ってしまいます。神さまをまことの神とせず、偶像を拝むようになり、神さまに敵対し、背き、裏切り、神さまを捨て去るようなことをするのです。

神さまなしでは、生きられないのに。神さまなしでは、滅びてしまうのに。これまで受けた、愛も、恵みも、救いも、祝福も忘れて、民は自分勝手に、神さまから離れ、その関係を壊してしまったのです。

こうして、民の方から、神さまを裏切ったのですから。民の方から、その不誠実さ、不忠実さによって、神さまとの契約を破ったのですから。神さまは、この民との契約をすっかり反故にして、民を見捨て、怒りをぶつけて、滅ぼしたとしても、まったくおかしくはありませんでした。

でもここで、神さまの「憐れみ」が、示されるのです。

神さまは、これほどまでに不誠実な民を、御自分を裏切った民を、敵対して刃向かってくる民を。それでも、見捨てることが、お出来にならなかったのです。

それは、神さまが、御自分がお造りになり、また選ばれた民を、心から深く愛しておられたからです。

そしてまた、神さまは、御自身が結ばれた契約に対して、どこまでも誠実で、忠実で、真実なお方だからです。

神さまの愛は、誠実さは、相手の態度によって、左右されるようなものではありません。相手が裏切ったから、自分も裏切っている。もう相手を見限って、捨ててもいい。そのようには、決してならないのです。

神さまは、一度結んだ契約を、相手がどうであろうとも、どこまでも誠実に、忠実に、守り抜かれるお方です。そして、愛することを、決してやめることが出来ないお方です。

だから、民が裏切っても、契約を破っても、なお、神さまは民を見捨てず、民を「憐れみ」、愛し続けられるのです。

その、神さまの愛と憐れみの御心を、今日読まれたホセア書が、よく表しています。

これは、神さまに救われ、生かされ、愛されてきたにも関わらず、神さまを裏切り、偶像を拝み、神さまから離れ去ってしまった民に、神さまが語りかけておられる御言葉です。11：8には、こうありました。

「ああ、エフライムよ／お前を見捨てることができようか。イスラエルよ／お前を引き渡すことができようか。アドマのようにお前を見捨て／ツェボイムのようにすることができようか。わたしは激しく心を動かされ／憐れみに胸を焼かれる。」

神さまは、神さまに立ち帰ることを拒み、かたくなに背く民に対して、それでも、見捨てることが出来ない。滅びに引き渡すことができない。愛することを止めることができない。民を思うと、わたしは激しく心が動かされるのだ。わたしは、憐れみに胸を焼かれるのだ。そこまで、おっしゃるのです。

神さまの「憐れみ」とは、契約を守り抜かれる、神さまの誠実さ、正しさ、真実に裏打ちされ。胸が焼かれると言われるほどの、熱い、深い、愛に根差した「憐れみ」なのです。

<イエスさまによって>

そして、神さまは、その御自分の「憐れみ深さ」のゆえに、民が破ってしまった契約に代わる、「新しい契約」を用意してくださいました。

しかもそれは、民の背き、罪を、契約を破ったその責任を、すべて神さまの側が引き受け、担ってくださるものでした。

そして、地の果てまで、世のすべての人を祝福するという、あの約束を実現するために。神さまに背く、世のすべての人々の罪も、このわたしたちの罪も、丸ごとすべてを、神さまの側が担って、罪の赦しを与えてくださるという、契約でした。

そして、その「新しい契約」を実現するために来てくださった方こそ、今、「山上の説教」を語っておられる、神の御子イエスさまなのです。

イエスさまこそ、神さまの「憐れみ」そのものを、体現しておられるお方です。

イエスさまこそ、神さまの「憐れみ」を、わたしたちの上に実現してくださるお方です。

この父なる神さまの「憐れみ」を携えて、わたしたちの罪を赦すために。わたしたちを、「新しい契約」に与らせるために。神の御子イエスさまが、わたしたちの許に来てくださったのです。

そして、わたしたちが、イエスさまと出会うとき。イエスさまの御言葉を聞くとき。わたしたちは、神さまの「憐れみ」の只中に、立たされているのです。

神さまに背き、離れ、御心に背いていた、このわたしたちを。神さまは、それでも見捨てられず、激しく心を動かされ、憐れみに胸を焼かれるほどに、愛してくださいました。

御自分の命を捨てて、血を流し、叫び声をあげて、わたしたちを罪から救い、赦しを与え、生かしてくださる、十字架に架けられたイエスさまのそのお姿が。その神さまの深い愛を、計り知れない「憐れみ深さ」を、現わしてくださっています。

そして、罪と死に勝利し、復活させられたイエスさまのお姿によって、敵対し、背き、裏切った、このような罪人のわたしたちに対しても、神さまがその御力によって、確かに救いの約束を実現してくださるという、確かな保証を与えてくださっているのです。

神の御子イエスさまの、十字架と復活によって、わたしたちは、父なる神さまの愛を示され、憐れみを受け、神さまが、誠実に貫き通してくださった「契約」に、与ることができたのです。

まず、ここにいる、イエスさまの御言葉を聞いている、わたしたちすべての者が、イエスさまを通して、このような神さまの「憐れみ」を差し出されたのです。

わたしたちは、神さまによって、まことの「憐れみ深さ」を教えられ、またその「憐れみ深さ」によって、救われ、今、生かされている者なのです。

<憐れみ深い人々>

イエスさまが言われる「憐れみ深さ」は、それほどのものなのです。

しかし、そうであるなら。一体だれが、イエスさまに「憐れみ深い人々」と呼ばれる者になることが出来るでしょうか。

あの、神さまの「憐れみ深さ」。わたしたちが、敵対し、裏切り、背き、離れ去り、ただ苦しめることしかしなくとも。それでも、愛し続け、御自分の愛する独り子の命を与えてでも救い出し、どこまでも共にいてくださろうとする、「憐れみ深さ」。激しく心を動かされ、胸を焼かれると言ってくくださるほどの、「憐れみ深さ」。

その「憐れみ深さ」を求められているなら。わたしたちは、いよいよ、自分が絶対に「憐れみ深い人々」になど、なることが出来ない。その現実を、思い知らされるばかりなのです。

でも。わたしたちは、その「憐れみ深さ」を、もはや、知ってはいるのです。その「憐れみ」を、もう受け取っているのです。

そして、「新しい契約」によって、憐れみ深い神の御子イエスさまと、一つに結ばれてしまっているのです。

そうであるならば。まことの「憐れみ深さ」を持っておられる神さまと、イエスさまと、もう一体となって生きる者とされているならば。どうしてわたしたちが、憐れみ深く生きることを、拒むことができるでしょうか。

その、憐れみ深さによってこそ、今わたしは救われ、生かされ、立たされているのに。どうして、その中でわたしたちが、人を愛さないこと、赦さないこと、憐れまないことを、選んでよいでしょうか。

わたしたちは、自分の中には、まことの愛も、憐れみも、慈しみも、持っていません。しかし、今やイエスさまから、すべての愛と、憐れみと、慈しみを注がれて、その恵みに満たされているのです。

わたしたちは、このイエスさまの憐れみ深さから、力を汲み取って。一体とされているイエスさまの、憐れみ深い御心に従って。愛すること、赦すこと、憐れむことを、望むことができる者、それを選び取ることができる者と、されているのです。

また、わたしたちが、そうして主の御心だから、という理由で、愛や、赦しや、憐れみを人に示そうとするならば。わたしたちは、もはや相手から、見返りを期待したり、何かを望んだりしなくてよいのです。

「憐れみ深く」あろうとすることで、損をすることや、報われないことがあったとしても。思うようにならなかったとしても。わたしたちは、もともと、何も持っていなかったし、何もできなかったのでは、なかったでしょうか。

それなのに、今やわたしたちは、イエスさまの愛と、慈しみと、憐れみ深さに包まれて、イエスさまと、思いも、心も、体も、一体とされているのです。

そして、そのようにイエスさまと共に、生きていけることそのものが、わたしたちに与えられている、最も大きな幸いであり、最も大きな報いなのです。

この「山上の説教」の続きの 5:44~45 には、このようなイエスさまの教えがあります。

「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。」

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈る。これが、イエスさまが、わたしたちに求めておられる、「憐れみ深い」生き方です。そしてこれは、わたしたちの力では、努力では、まったく実現不可能な生き方です。

でも、この教えを語ってくださる前に、まずイエスさまが、敵対するわたしたちを愛し、イエスさまを迫害するわたしたちのために、命を尽くして祈ってくださいました。

そうして、イエスさまが、わたしたちを赦してくださいました。救ってくださいました。生かしてくださいました。そして、ご自分と一つに結び合わせてくださったのです。

この、イエスさまの憐れみに基づいてこそ。この、イエスさまの愛と祈りに支えられてこそ。わたしたちもまた、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と言われているのです。

そしてそれは、「あなたがたの天の父の子となるためである」と。あなたがたは、憐れみ深い、慈しみ深い、愛に満ちた、天の父なる神さまの子どもとされたのだから。イエスさまと同じ、神の子とされているのだから、そうしなさい。そのように生きなさい。そのように生きることができる。そう、言われているのです。

「憐れみ深い人々は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける。」

わたしたちは、このようにイエスさまに語りかけられている時点で、もうすでに、神さまの大きな「憐れみ」を、受けているのです。

その大きな憐れみの中で、イエスさまにあって、イエスさまに支えられて、憐れみ深い生き方へと召されているわたしたちは、まことに幸いなのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちの背き、裏切りにも関わらず、あなたの憐れみ深さと、あなたの誠実さによって、わたしたちを愛し続けてくださり、救い出してください、御許へと立ち帰らせてくださいましたことを、感謝いたします。

わたしたちのために、苦しみを受け、血を流し、十字架に架かってくださったイエスさまのお姿に、神さまの、まことの「憐れみ深さ」が現わされていることを覚えます。

わたしたちは、「憐れみ深さ」からほど遠い者ですが、どうぞ、あなたの憐れみを受けたものとして。憐れみ深い、あなたのもの、イエスさまのものとされた者として。わたしたちもまた、人を愛し、赦し、憐れむ生き方を、選ぶ者とならせてください。

イエスさまの、愛と、祈りの中であって、わたしたちを支え、強め、新しくし、御心に従って歩んでいく力を、あなたに喜ばれる歩みをなす力を、お与えください。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 445 「ゆるしてください」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 26 「グローリア、グローリア、グローリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン